世常
佛法

涙世為於義

四

藏書
遠
652
4
文庫
藏書印

門へ
652
巻4

帝國圖書館藏

浪世界持法義　四之巻目録

第一

傾国山迷宮大婦妻色男の
所生等堅和問答

明治三八年
九月十一日購求

第二

世界の人本来なる拍子抵い冥途土産
年表の色狂ひは早魃よ因を
持つて身を作る者財産
鬼悔てうつゝ夫婦の者と
行末懺悔と述る

第二　啓付ぬ二の脇無ふ抑〳〵ぬゝの接物

仕脇ハ　六位と実まれて風俗を作り
元来拍のまたい名まにて後
せのゝまをざる利を沒り

第三　色乃こゝ仏の実教形れて今財産れ時無原

仕脇ハ　上京世界の玉れ嘉に乗り意に
楽と拍るの元宿拍る金
紙の幾法を伸尽きり

法世界持俊義四之巻

㊀　まぢのゝか孝ちる拍こ紙い冥途の土産
意を和為冬〳〵日一生拍世〳〵ても命性にてひするに世を海て
浮世俳よ世ぬ。ゝ子色て年月の字時に。世界物いいとる
すゝとれ新後ちぢゞけれており。ゆ字年世にて世ちもゝひ
つさ。京のさくろいゆよろれ拍びやどに入きゝけこゞるとお
くりゆいゝるのこと日ろるゆりに。繁よまちさ筋ろく。極に二まに
めゞる人清千ち拍よたちけられ。遠い情ゞにかきりちとちゞき
ろ人。蛸の月体とりとれ。寿の物をてさびせろゝでれろゝて
ろゝゆにめてて。一天さにて同がかとんでろゝど。世ちてゝ
と同ゞゝるさゞ。ゆゝら友とゝろさて。ち拍世界ゝ挺ゝ
味係引けきべゆ友耳にんゝとゞろひきて。ゆ痛する

と申すうつの毒ゆりてに祈ることなれば、笑ふて無事なれば人をうらかさきの法華経をてぬげや、あてはまぢら大師に一社なれども
あらといふいなで、主水の釈とあつて考へつてすこそうでおそれらうもを
ぬんでかり。男らに主ふんいなとしてあらの伽のいさこうとつるまるく。百
病人の伽するゆうにつめそのおそれおろびろめて去をいはの因果てつめ
ゆくいめるまでとぬかゆをにて恨とつにぬるさやけてもえおがれ合ぶ
まもてあとつるがれて伽のおろいるがみて主水のおのれひそれ
うそはまこと今と大海、拾ふとつるのそれにまて世あのつ人いあし普
那法の人物命。番名をれあいけ〳〵祈ずるときひ色拾ふをれ
年れふるのとつとれぬうこは世とはのおりろいるまあくめがきにて。
八十歳ちこのまを〳〵一門一家の美人はまるをてゆ〳〵ちろ紀年書まと
してあいけ〳〵品のを〳〵拾ふる。大名の人物と他人のおふまて。

すでいむ病いろそ拾ずぶ。給奥うてまろるをでゆづてすゆ。二和歌
新下く出人の去法る拾とろ法ていて者病ちろいて者のおく〳〵貝とさ
ほてゆ人ちの新ひそ化〳〵祈するをづゆ地べゆとい兵怪
よるさ法祈とおれ当をゆて世れのげてそが移ふたくこの不まろく。
日法の姫高宝出てゆ二人の辻のから病ちんが安きてゆどと地ぐ〳〵行
まゆでこ。病毒のろそく立てサるげ〳〵立ておが法とれば。まくか
ぐろうてゆや〳〵法の人のるでいるいゆ〳〵をのゆ人そ不ふいろ〳〵げ
いろくとおふのておがるまゆ十夜の兼〳〵ろそれい十月のるくいへ。ゆ
新所のおろ人をのるまぐそ。拾ちく〳〵書きとびつけ。我ぐうのひろい。
ろいけろ〳〵今長〳〵ろゆつめよけいをいて毒るやねそ祈今おを。
今をのゆ法のあ。新所のあげやとろ人せてろれ。人ひとの新ひ日てて
人ぐまぐゆをるゆるふぐゆ。一代よるけ法れさ今拾。おがを法

[illegible]ひさをほりてかぐるのさんにさまと。書をよい和歌を作合しめて。
[illegible]掛金へ[illegible]ひとりさんにさまけびとろ[illegible]あるい事和中[illegible]ばかりせば。
[illegible]のあやとまあわいの[illegible]ふ同[illegible]ぷよく金づかいてこのこ合[illegible]
ぢくして年ゲ四へろろ夫とびひせ酒をぢいおぢ母[illegible]の酒ぢり
[illegible]のこ[illegible]ぷのろ[illegible]ぐとえて酒をこぢ[illegible]ぷ年おいひ白じあ[illegible]ば。
今[illegible]の[illegible]に呂さすれて[illegible]のまゆ和びをすぐこ[illegible]ぷ[illegible]めて口情。
[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]て人[illegible]子分の[illegible]年に[illegible]ぢうする美[illegible]わ[illegible]ぷ服ゲ手あ
であ[illegible]ふ[illegible]栄[illegible]ぷ[illegible]とい結合[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ

上まをしたが八十余のこゝろおれ新い紙ごはぢちうん紙をうるゝ〜でおてゆ
いの髪の十分ゐるゝんぞとうにいてとうせひゆとそれぢ二世はこうるまい
といふ今うふ慢祇くのようなもうしたいれ家訳とまるにおるひ
ゆてたうりうゐ者ゐうとゆ屋てゆりゆおるさくこゆうゐ者ようてさば。
祇くの世界をゆうりうびて光上まをゆうもうんゆこてごんすし。祝
うけせ光ゆうりうれいばおやうれしとおいてでれ。秘ひせれゆる内いけ夏
どのゆげうゆと揚屋と書社場ゆて人参で金とうるぎすゆりれ廓
での社を書ゆて冥ゆのゆて大分金をゆるゝようれ四人歩とうとし
ゆ揚ふゆ後しうけとい行ようゆてもれぢ。よれ紙ゆの孔吳書を
れ祇しゆゆゆの日の彩ゆるの和尚とよびてゆゆ〜結をあげて美
とゆれゆゆ〜富とうけゆ新町ゆれてゆ屋の高ゆ金ゆゆ書ゆの祝を
九ゆゆ〜さとゆゆ〜ゆ制と逆ゆれゆてまれうしばゆ四ゆ島と

ゆれゆけゆそうゆ元〜ゆ四郎ゆゆれ世ゆうゆ金ゆんゆ人ゆれ日ゆて。祝
ゆのゆ三里の揚ゆのゆ〜ゆゆゆ元排の後ゆゆめて義人のたゆけと
ゆゆとゆゆゆれゆゆ〜ゆれゆゆてゆゆゆれゆてゆゆんゆゆゆゆゆ入て
ゆれゆうゆゆたゆゆゆゆゆ

むかしとれば今紅屋ゝ井仁右衛門の子孫のゝ町人い常の猫ゝ付けさび久しく富貴となりて
紙ゝ今紅とゝ書きしかどよりのゝ人ゝ
今紅とゝ己が家にかゝいまして つゝや〜先よい子のゝ
ゝ紅ゝ子孫の羅むゝ己ゝ今紅屋ゝ財い先紅ゝ子孫栄えゝ人のゝ
ゝ紅ゝ栄えゝ秋ゝ一ゝの栄誉栄えゝつゝや〜先よい大きゝ
ゝのゝ今ゝて又秋ゝゝゆゝゝ
ゝとゝ紅ゝ毛者ゝの第一ゝゝ
ゝさゝ紅ゝ秋ゝゝ子孫ゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

ゆゝゝゝゝゝゝ

あるの業のおいてめ千人の手綿が一ぬ業ようにかわれいそこに清さ
おいるい清したれぐちと脇々れど綿わぐぶえぐよくてたかたせで
月は三外とかりの内でもよりのちぐひがわるのとこかわまぐれよう
和と知ど扱るこ紙るすとしてそくるせどこれの感えでくてほ恵
して清おひれ貝清金の市角取るこ出るもこれ料理
ぐさるぐきて大名侍のけるたとわくよせられば俵る沼水始
まえの考合祝の利の金銀と沼宴拝真より清ろ世の厨とこひ
こわくるこ育こるなる親にた。所いと上合せて出屋敷、何いる
しけこ法へ西ろ家の市扇和とこれべ出こる秘義の古法服の
名年にて虎渡の指の三笑の器。まそい古金孫の稼水切れ
ど。猫よい判はたるふえて果しく上方のあやぐ情ろ塔拝ろあし
扇和とおぐわば次のまるもさこするものとこれいて四ぐくおぐむを

来客のこのいりめこ掘もみぐろて世ろも知ろれるれ笑ひぐて扇
和と見笑ろるんぐのやこんもおぐ知ろくいぶ仕清と神てこれべ知ひ伝
れぐやけこておぐむぐぶれこ考ろいて車忽ゑて和てころこまぐい
の草とこんていもむれのこ下けとかむろおくさこにるぐこへかの
産ぐろえでこ人新次のなるこるぐこ和産よるとれい料理ぐよ
きこて脇とすゆこにひ新こたこの脇よすひこるるれいぶんを
あて行仕人が蕪和で才たよい二脇すこぐ。一脇よい笑をけを
まこきふこていこと次のあやぐ和こぐれこれが武弘方の三人ぶち
とこれおぐやとこれい体よおけれこて脇にを大ゆをこらこて二後で
すこらこ。ぐぐくいかの一後の脇いを、つこけてゆるこぐこいわぐやと。
まぐかにめていここてゆれこ。一後の技るこ知ぐこ。ひまけ一手く
紙は包でこうこまころゆこひ仕知て笑ひぐくおぐ行仕人も

我とおもはねど手柔くうち出れいづれも秘法が出まして為にぐまん
ちうこがわしてくるめいてさてさてびんぼうの事のぐぐなて。
法華宗が出ますおくのいおうるさんはまとゆれば法華宗でさ
すが異神は横ちゃ可とて祇園祭でもこのうちねぐ
慶元でこの度のまい次の人は方とうつてられとのせう合紙おくと
てそでいはせて伝ひいそしのれが義をもつて用ひ業人のあ
うに和ずさいて相家屋をこれば家金の面名がうとさみ。
相はのよの名がもすこて結をさをらるれば男代の仕者をけをする
とわざくうぼくうつめとて万業の下ばらと多ひとを分い一生
組つられのこうばよ金を渡峰が代よ西美作ようのくら
ぬ中にて石弁当よ鉄つうべ新ばよあてねどもとうけおいるの
けぬゆうに法ちとそれくして拾て浚し義付の組系ゆづりて。

えでいい万年も性るうて。ちてあるいあつうぶ巳ちも懐
二代の中に仕先てあ意夫はあるやちが世にあつ河ホ枝あに系を
入ておりくまいてそ今ち意はよ西がよりとはべなけ世に多し。
今組いまりあ世意のあるはせにる孫のみとそ主男は業
義とせばよあてつられて仕者ふいはさふ拾そ巳せるさうに。
祝又持出て世ものるる河ひすこうづうあ手がるよ法にると。
組れいるこ拾びのありしろいるをやうて一は酒始まて子孫のみ
とて今組湯て義よ横ておいそしこ意がるいそいあうまいりけいやよ
あつて庭別われいべろ事ふ家事風孫るうにはつてそのの
ろ男にたりこでそて法けいとけいとし公使ぶうてくをて今よ
多ろて事巳宴とんそれ拾意人の拾といあるそのとの事と
人い鬼ゲ多ふといんで世いるいう子孫のみよ湯ておいそぶてつひ

くづてりうふうちつ身のうちの身にて色欲世の極
楽ぐうんでぬまに」ふいくらられて命の法ざくと古人もいわる邑。
傾国花里の色ふかと侍はちる事を兼ねるべぶ。ぶく始末の
こゝろの殊勝と切て家とはし命となるこゝろに改ふくと庵
を捨てのちろ〳〵いぶり法よ人答て曰。始末計て法げいと捨ようと
いつまいあるべぶどゆるてけいこさすることを藝に身をおるげ。今
始をつゝやしとのまゞ身るこの家業と謀略にとるゆつゝ学ぶべ
るべと伝をゆるるべでしだ革のゆい和俗の風俗人の変ぶ心の
流車にぬのひろるれいぶるとぶげ道ぶふくるるべ。をざりも
よくられいぶるはまるをて矢ぢるこんみてもぞんぶど。ろうりぬを
これ伝をこられば」ぶろるとこを引きぞを上のろ程さ人つまいあるゞ
ちちあて奥伝とうびきろ角とかてつとめそけむに及ぶど。

今河のひとろにいるくといへば栄耀と心伝ろふ
今始をたいや。粧ふ色を春路よ。商盛昌の地とせざるべ。衣人合
とぬゝ衣服をあるろ。万にさよるとたて。浮を白上にめて身代
のさろをぬゆ〳〵。法華と浮世の花とみて。実のろ浮世と
ろるれ世ものをへなろ。ゆゝへ伝とみるこ甲斐世ろの筆ろ
新古こをて。法華れ重表るれぶて。ろ重る排せ〇いるる伝
ようゝゝるとそれよめんでて行をよ。排色のいろものみもり
ぶ。二条ろの奇学て古今集ろ学ぶ氏ゐ
ゆるされ。紫式目色色のあらひをとゆゞへぬを。藝道のお蓋
の宮殿をおくゐれぶて。侍伝使ていひをよいるべ。打鼓ゝ
人にとられて松風の怪路ぶ。ぶらぶ殿の深ぶ紙ぶ。ぶれろ侍と
おるをさへあれば仕ると。冀いろ上て自傷してもぶいを所行ろ伝

[illegible]は[illegible]ものの也。[illegible]ぬめいそ[illegible]の孫
ざゑもん[illegible]人今年[illegible]法師[illegible]世[illegible]月のひと[illegible]入さゑ[illegible]
て[illegible]なりぬ。方の[illegible]に[illegible]稚[illegible]より[illegible]寄[illegible]に[illegible]
末の二字[illegible]れど[illegible]
人れ[illegible]をよ[illegible]時[illegible]とのごと[illegible]
入てはじ[illegible]のよ[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]といふ家の[illegible]
ちごふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

(三) 色[illegible]

中堂[illegible]
[illegible]さん[illegible]
[illegible]
[illegible]

揚屋町
夏市

大臣参内の有と告る。宮にあて参りて、葉湯を浴し。
沉香の匂すぐ、雲居に向て拍手ひとつ打て。榊葉の髪に梅花をかざ
らし。一条院の宮より賜りて。[illegible]たきのつと。或い地獄の極楽由ゆひくに
繋て。玉の珈をして。三幅の帛をゆみなと出のそぐ[illegible]ゆうくすを
ふりをさう。袈裟隠よ。絡ずかけすてひらぐにめされ。中入うすさ大幅の帛
おひすびに。指極のもうめ。[illegible]を絡て。行基を[illegible]
如意光遣女は。国俗せ[illegible]。神祇の天蓋をさうせて。追付て。新向うの
八孫おに。俗うに。の向。絡ふ。楽太ぬのあと向と。清へ。玉鉾上下に。旋
物をしいて。その肩やうにひて。内行ひ。数をつ。三絡の高色。ふを
新し。扱し。令れ。数をよ。内。楽の。数。塩し。頭。高。宴。閑。ゆ。て
涅槃の。床。入へ。珊瑚のまくい。男の。裸。ふ。絡。言。て。猫。の
ふくこころ。数ひ。うに。[illegible]。脱の。身。ぬ。抑。閑。ひ。の。ぬ。這

色河と。始ちゆひて。始まて。拍[illegible]。[illegible]。[illegible]。

さまざまいろいろの揚げ物出さるゝ。ごとの所すべて物と高やかにせらるゝ大夫
所司とうけらるゝとても。ものゝ員でゝあるゝまゝ。物口皇欠む人
稚ゆゑても。今宿ごとに打ひ物ひかれて浮世を忘れ
しぬまの二字と後世。今宿の万物肝心を合点さをつゝめ手に
つゝ美いとあゆゝの教とさきちゝ山ゝ。ゆゑ猛者のみさゝ。ゝの上
平安命のゆりごとに行ものゝいひまいにのつゝ。ゝ。ゝの地ぐゝ。ゝ。ゝ
ゝ。ゝ。ゝ。ゝの揚げ。ゝ。ゝ信の行ゝ利物でずるどき細乃ゝ
と無位無官でゝきのゝ。ゝ。ゝ。

角でゆるゆる代右とでい奏いなさんしまいぼよ訪こなと利のある
ぬてゆ行くのおえんでゆ出ぐゆけて掠ぶ系れど負てゆげますくゆ奉も
うぐゆさびよいろりいそゆ奏つけさゆゆてゆみゆ右のお佳掠紙
半てゆ右とのうゆゆゆいつるぐゆゆも同じ半ゆ右のすけゆゆぬて
すてぐゆれゆゆか月ゆ右いゆゆらの里、ゆゆゆいゆてゆげゆうく右
ゆけゆぐゆの出ゆ掠人ゆゆゆゆゆ神つまゆゆてゆぐゆゆゆ
ゆゆゆゆゆうゆいゆゆゆゆゆ、ゆゆかゆぐゆゆまゆぐゆゆゆゆん
る甲芳ゆ風俗でいぐゆゆゆゆゆゆゆのゆゆゆゆゆ
右ぐゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
逆ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
うゆゆゆゆでいぐゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆのゆゆゆ奏ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ